



郵便物盗難防止の看板

○防犯活動事例

多彩なパトロールで住環境を守る！

事例の概要

グリーンハイツは昭和44年に入居を開始した分譲型の団地で、その名のとおり豊かな緑に囲まれた集合住宅です。その敷地を対象区域とするグリーンハイツ自治会は、93.3%という非常に高い加入率によって組織されています。同自治会においては、その良好な住環境を守るため、住民による様々なパトロールが実施されています。団地内の安全を守る目的で行われる防犯パトロールだけではなく、環境パトロール、自転車・バイクパトロール、郵便物盗難防止特別パトロールなど、それぞれ目的に応じた様々なパトロールが同時並行で行われています。

特徴・ポイント

環境パトロールは団地内の美観・風致を維持するために、組織されたパトロールで、歩道に張り出した枝など剪定の必要な箇所を確認したり、雑草やゴミの放置など、美観上問題のある箇所を点検したりしています。枝の剪定

作業等は団地の管理組合の予算で行うなど、効率的な処理がなされています。自転車・バイクパトロールは、未使用で放置されたり、外部から持ち込まれたりして団地内に放置された自転車・バイクを発見し、これに対処するため、組織されたパトロールです。団地住民の所有する自転車・バイクには、その旨を表示するステッカーが貼付されているため、容易に判別できるよう工夫されています。

郵便物盗難防止特別パトロールは、平成20年5月下旬頃から集合郵便受けがいたずらされる被害が多発したため、同年6月から特別に組織されたパトロールです。平日の日に各棟の郵便受けを確認する巡回を継続した結果、効果を発揮し、同様のいたずら



防犯パトロールの様子①

が発生しなくなっただけのため、1ヶ月で活動は終了しました。

これら各種のパトロールは、それぞれの

目的のためだけに見回るのでなく、防犯パトロール中に美観上の問題箇所を発見したり、環境パトロール中に死角となる植栽を確認したりと、複合的な視点で実施されている点が特徴です。



防犯パトロールの様子②

課題・展望

グリーンハイツ自治会においては、今回紹介した各種パトロールのほかに、も様々な活動が行われています。特に、自治会の活動結果等の情報を会員に提供する広報活動は活発であり、自治会広報部が毎月発行する「グリーンハイツ自治会報」は、団地内での生活に不可欠な情報を的確に伝える媒体として、会員から重宝されています。

この様な活発な活動は、自治会活動に対して高い意識を持った自治会会員により支えられてきました。

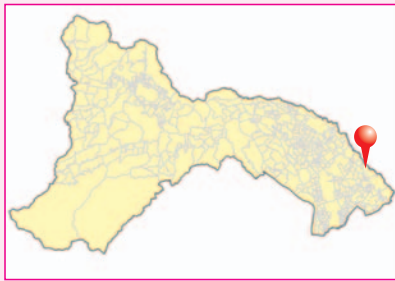
しかし、昭和44年の入居開始以来、団地内の居住者の入れ替わりは少なく、居住者の高齢化が進み、「高齢者が高齢者を助ける老老支援」のコミュニケーションへと変貌しつつあります。

そこで、グリーンハイツ自治会においては、高齢者が安全・安心・快適に暮らせる環境づくりの一環として、高齢者のいる家庭への支援体制づくりを模索しているところです。

今後、一人暮らしの高齢者の孤独感を回避する相互扶助体制、ゴミ出しや重い荷物の運搬など高齢者の生活の支援、民生委員や介護サービスなど外部の高齢者支援サービス活用の紹介等の活動を検討していく予定となっております。

その際の課題として、支援を求める対象者を把握する方法、要支援対象者の個人情報保護、高齢化が進む団地内での支援の担い手の確保等が問題となるため、今後、団地内で議論を深めていくことになっていきます。

団体の基礎DATA



団体名◇グリーンハイツ自治会
創立年◇昭和46年
世帯数◇572世帯
代表者名◇宇佐美 純夫さん



問い合わせ▶宇佐美 純夫さんまで
電話 042-765-3503



役員会での検討

体験・取材した職員から一言！



戸籍住民課
梅津 玄

役員会では、担当業務を全面的に任せられた役員の方々の強い責任感と、最終的にまとめ上げる会長のリーダーシップが印象的でした。また、防犯パトロールでの、「自分たちの街は自分たちで守る」という真剣さに頭が下がりました。



総務課
土元健一郎

「団地内のハード（施設管理など）は管理組合、ソフト（イベントなど）は自治会、という役割分担の明確な組織がある点が強み」という自治会長のお話のとおり、強力な組織によって活発な活動が支えられていると感じました。



防犯キャンペーンの様子

○防犯活動事例

複数自治会の連携の下での 自主防犯活動の取組



警察と連携した防犯キャンペーン

事例の概要

「相栄地区防犯ジョイント・サーティ」は、地域の防犯活動を目的として相栄地区の7自治会が母体となり、平成16年1月に結成されました。団体名は英語の「Jointly Surety（連帯保証人）」に由来し、住民同士が自ら結束し地域を守っていくことを表現しています。活動は、主に通学路・夜間の街路の防犯パトロールや年末に淵野辺駅前で行う防犯街頭キャンペーン

ペーン、そして防犯啓発看板を街角に設置することです。防犯パトロールを開始するに当たっては、日本ガーディアンエンジェルスによる講習を受け、服装や携行品、隊列の形状などパトロールの根幹となる事項が綿密に練られました。当初から確立された形態が築かれたパトロール活動は、相模原市内の他地域から見本とされるようになっていきます。

特徴・ポイント

他の地域に先駆けて活動を立ち上げたため、周囲の関心が集まりやすかったことや、地区内に相模原警察署があったことが、活動の拡大や浸透につながりました。際たるものが防犯啓発看板の設置であり、警察署の支援により60枚以上の看板が提供された上に、設置場所となる道路沿いの一般家庭の協力もあわせて得られたことで、活動が大きく進展しました。また、活動を重ねるに当たり、徒歩隊列のみであったパトロール活動をより広範に行

うために自転車隊を導入したり、道行く人々への声の掛け方も隊員同士で意見を交換して、よりよい対応を研究したりと順次改善を図っています。

課題・展望

現在の防犯パトロール活動の参加者は、退職者を中心になっているため、仕事に追われる現役世代にも参加してもらうことが活動を継続する上での重要な課題となっています。そのため、パトロールを休日の夜間に行ったり、必要以上にパトロール回数を増やさないようにしたりして、働く方たちが少しでも参加しやすい状況を整えるようにしています。

また、学校のPTAを通じて通学路の防犯パトロール活動の案内を行ったり、地域行事である公民館まつりや子どもまつりの際に活動記録の展示を行ったりすることで、子供たちの安全を守るという側面から防犯活動に対する意識を高めるための工夫も行っています。

団体の基礎DATA



団体名◇相模地区7自治会
(活動開始：平成16年)
世帯数◇2,672世帯
代表者名◇飛澤 大山さん



問い合わせ▶飛澤 大山さんまで
電話 042-756-0407



▲防犯啓発看板



◀キャップ

体験・取材した職員から一言!



生涯学習課
加藤 敬

「自分たちの街は自分たちで守る」という熱意が、多くの地域住民の協力を集め、現在の活動を支えているのだと感じました。



納税課
折笠 真代

単位自治会だけの活動に収まらず、より多くの地域が一体となって安全を守っていこうという結束力が、活動浸透の原動力となっていることを感じました。